

8月12日、オリンピック記念青少年総合センターで、全国高校生100人委員会－Comm100－の全国会議が開かれた。この委員会は、北海道から沖縄まで全国の高校生が、学校、学年、地域の違いを越えて、高校教育や入試制度など教育改革について熟議し、その成果をまとめて文部科学省に提言することを目的としている。昨年の12月から活動を始め、各地域でプレ会議を行い、大学入試センターを訪問して山本理事長と意見交換するなど学習と熟議を重ね、それぞれの経験や思いを伝え合い、語り合ってきた。その成果をまとめて発表する機会が今回の全国会議だ。私は文部科学省の代表としてその発表を聴かせてもらった。

この場を借りて、彼らの意見を少し紹介してみたい。

- ◆ 学習が真の理解となり、主体的な学びとなるためには、能動的に学ぶ授業が必要だ。
- ◆ 多くの高校生は自分の将来を見つけていない。自分の将来を見つめることができるような学習の機会をたくさん作ってほしい。
- ◆ 入試で使う知識は大学で使わないのではないか。大学で使わない知識を入試のためだけに学ぶのは時間の無駄だ。
- ◆ 高校では自分の興味のあることをもっと学べるようにし、入試は学んだことを自由にアピールするプレゼンで評価してほしい。
- ◆ 入試では、深く掘り下げて考える力、自分の言葉で表現する力、答えが一つではない問題に対し自ら探求し自ら答えを出す力を評価してほしい。そのような入試をFOA (Finding Own Answer) 入試と名付けたい。
- ◆ 地域について学ぶ学習や大学につながる専門的な学習の機会を作り、その成果を問う入試を行ってほしい。
- ◆ グローバル化が進む中で、多様な文化や言

独白

—ひとりごと—

全国高校生 100 人委員会

文部科学事務次官
前川喜平

語を学ぶ異文化教育が必要だ。高校に第二外国語を導入すべきだ。

- ◆ 英語教育はスピーキングを中心としたアクティブな学習に変え、入試の英語は面接やディスカッションを取り入れてスピーキングの力を評価するものに変えるべきだ。
- ◆ 経済的な理由で進学できない人や退学を余儀なくされる人がいる。奨学金制度の充実や学費の少ない夜間大学の設置が必要だ。
- ◆ 沖縄では基地の騒音で授業が中断される学校がある。防音や冷房の設備が必要だ。離島から進学するための経済支援も必要だ。
- ◆ 不登校生徒のための適応指導教室は無理に学校へ復帰させようとする。個人個人に応じた学びの場を作ってほしい。

彼らは、学ぶ意味を根底から問い直し、現代社会の不正を直視し、枠に嵌められた教育から脱したいという思いを抱いている。学びの当事者である高校生たちの真剣な声を、教育政策の形成に携わる我々は真剣に受け止めなければならない。